

令和7年度 東京都小学校理科教育研究会 研修Ⅰ  
「昆虫の体験プログラム」

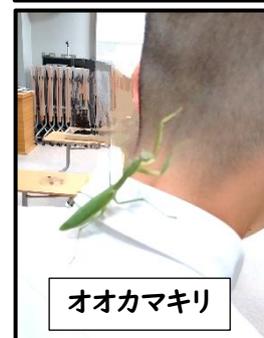
期 日 令和7年6月13日(金) 14時30分～16時30分

場 所 多摩動物公園昆虫園本館・生態園

講 師 多摩動物公園教育普及係 土井優子先生 他

内 容 (1)挨拶 都小理副会長・坂野真貴子  
(2)講師紹介  
(3)昆虫の体験プログラム「虫となかよし」  
(4)昆虫園の見学「生態園大温室での生き物の観察」

参加人数 14名(都小理参加者2名)



## 報 告

### (1) 昆虫の体験プログラム「虫となかよし」

多摩動物公園において、小学校3年生に合わせたプログラム「虫となかよし」を実際に体験。5種類の昆虫とザリガニについて、触り方と観察の視点を学んだ。「虫が苦手」という児童でも観察できるようになることを目標としたプログラムで、触る昆虫などの種類が変わることはあるが、通年実施可能とのことである。多摩動物公園では1年を通じて昆虫を展示している。

昆虫の背中部分をつまむやり方だと、昆虫を傷つけてしまうことがある。今回の研修で学んだ、「昆虫の生態に合わせ、虫と仲良くしながらスムーズに観察する方法」は以下のとおりである。

#### ① ナナフシ、カマキリ

昆虫の通り道に手を差し出すと乗ってくる。動きが悪い場合は、おしりを触ると前に進む。戻す時は手を木の枝に近づけるだけで移動してくれる。

#### ② コオロギ、ゴキブリ

両手ですくうようにして捕まえる。おにぎりを握る要領で両手で空間を作り、10秒ほど数えらるとおとなしくなって観察しやすくなる。暗い場所が落ち着くという習性を利用した方法である。

#### ③ カブトムシ幼虫、ザリガニ

両手ですくう方法であれば、暴れたり攻撃してきたりすることはない。

### (2) 昆虫の体験プログラム「生態園大温室での生き物の観察」

広い大温室にて飼育されている昆虫を観察。たくさんチョウが飛び交い、「蜜を吸う」、「追いかける」、「交尾する」、「休む」、「産卵する」様子を見ることができた。羽を閉じて休むチョウと、羽を広げて休むチョウの2種類があり、両種を確認することができた。

また、昆虫園本館における観察も実施。児童が利用する際に配付される学習プリントを使い、視点を明確にして昆虫園内を見学した。「トノサマバットのオスはどっち?」、「ハキリアリの成虫はどれ?」など、クイズに答えるためにじっくりと館内を回る研修受講者の姿が見られた。



身近な昆虫に触れ、海外の珍しい生き物を観察できる貴重な機会となった。また、研修開始時に「虫が苦手」と語った受講者が4名いたが、全員が昆虫に触り、観察することができるようになったことが、この研修の大きな成果として挙げられる。